夢街道ルネサンス認定 街道東城路

# ぶらり散歩マップ

歴史に彩られた城下町をのんびり散歩してみませんか。

TOJO BURARI SANPO MAP

# 山城（五品嶽城跡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 五本竹城（ごほんがたけ） | 室町期築城　宮景友代〔天文2（1533）年西城大富山城に移るまで宮氏の本拠〕 | | |
| 花谷城（はなたに） | 桃山期： | 天正19（1591）～慶長5（1600） | 佐波越後守代 |
| 世直城（よなおり） | | 慶長6（1601）～慶長17（1612） | 長尾隼人代 |
| 五品嶽城（ごほんがたけ） | 江戸期： | 元和5（1619）～寛永元（1624）年 | 亀田大隅守高綱代 |
| | | 寛永18（1641）～ | 浅野高英代 |

※平成七年ふるさと今昔講座文化財部作成の霊場図を基に現在確認できたものを掲載しています。

## 東城四国八十八ケ所霊場

●・00 霊場

## 四つのパワースポット

| パワースポット | 本四国寺 札所番号 | 本四国寺 名称 | 東城霊場 本尊名 | 当時の安置場所 |
|---|---|---|---|---|
| 新丁山根 | 1 第一番 | 霊山寺 | 弘法大師 | 新丁山根大師堂 |
| 新丁山根 | 第三番 | 金泉寺 | 釈迦如来 | 霞ヶ丘 |
| 新丁山根 | 第四番 | 大日寺 | 大日如来 | 霞ヶ丘 |
| 新丁山根 | 第五番 | 地蔵寺 | 地蔵菩薩 | 山根霞ヶ丘 |
| 新丁山根 | 第六番 | 安楽寺 | 薬師如来 | 霞ヶ丘 |
| 新丁山根 | 第四十八番 | 西林寺 | 弘法大師 | 山根元胡社横上 |
| 新丁山根 | 第四十九番 | 浄土寺 | 弘法大師 | 霞ヶ丘大師堂 |
| 新丁山根 | 第五十番 | 繁多寺 | 弘法大師 | 霞ヶ丘大師堂 |
| 学恩寺 | 11 第十一番 | 藤井寺 | 薬師如来 | 山門前 |
| 学恩寺 | 74 第七十四番 | 甲山寺 | 薬師如来 | 山門前 |
| 学恩寺 | 13 第十三番 | 大日寺 | 大日如来 | 境内 |
| 学恩寺 | 第六十七番 | 大興寺 | 弘法大師 | 学恩寺上溜池脇 |
| 千手寺 | 1 第一番 | 霊山寺 | 釈迦如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 3 第三番 | 金泉寺 | 釈迦如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 5 第五番 | 地蔵寺 | 地蔵菩薩 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 7 第七番 | 十楽寺 | 阿弥陀如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 10 第十番 | 切幡寺 | 釈迦如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 12 第十二番 | 焼山寺 | 虚空蔵 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 14 第十四番 | 常楽寺 | 弥勒菩薩 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 15 第十五番 | 国分寺 | 薬師如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 16 第十六番 | 観音寺 | 千手観音 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 21 第二十一番 | 太龍寺 | 薬師如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 35 第三十五番 | 清滝寺 | 薬師如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 57 第五十七番 | 石清水八幡宮 | 釈迦如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 67 第六十七番 | 大興寺 | 弘法大師 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 69 第六十九番 | 観音寺 | 聖観音 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 70 第七十番 | 本山寺 | 馬頭観音 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 73 第七十三番 | 出釈迦寺 | 釈迦如来 | 本堂脇 |
| 千手寺 | 第七十一番 | 弥谷寺 | 十一面観音 | 墓地 |
| 千手寺 | 第七十九番 | 崇徳天皇寺 | 聖観音 | 石段傍 |
| 正安寺付近 | 78 第七十八番 | 道隆寺 | 十一面観音 | 正安寺下の道 |
| 正安寺付近 | 19 第十九番 | 立江寺 | 弘法大師 | 正安寺境内 |
| 正安寺付近 | 80 第八十番 | 国分寺 | 千手観音 | 正安寺境内 |
| 正安寺付近 | 81 第八十一番 | 白峯寺 | 千手観音 | 正安寺境内 |
| 正安寺付近 | 82 第八十二番 | 根香寺 | 千手観音 | 正安寺下の道 |

# Access

東城へのご案内

**お車**

- 大阪方面より中国自動車道で約180分東城IC下車
- 広島方面より中国自動車道で約90分東城IC下車
- 福山東ICより国道182号線を北に約70分

**JR・高速バス**

- JR芸備線東城駅下車
- 大阪(梅田、新大阪)より高速バス東城ターミナル下車
- 広島バスセンターより高速バス東城駅バス停下車

**お問い合わせ**


東城まちなか交流施設えびす　TEL(08477)3-0788
http://machinaka-ebisu.com/

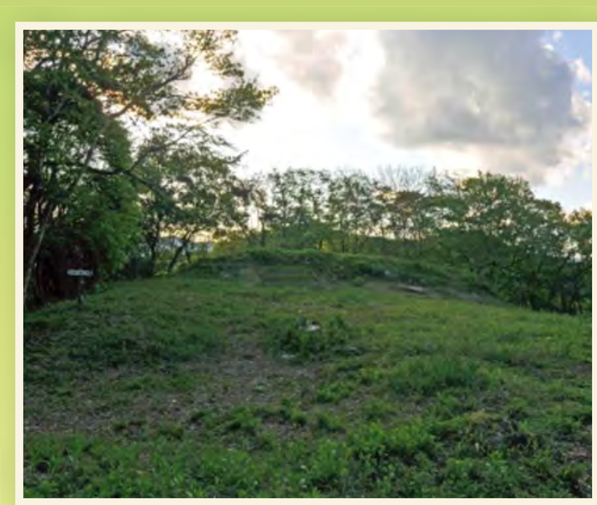
庄原市役所東城支所産業建設室　TEL(08477)2-5008


ver.2

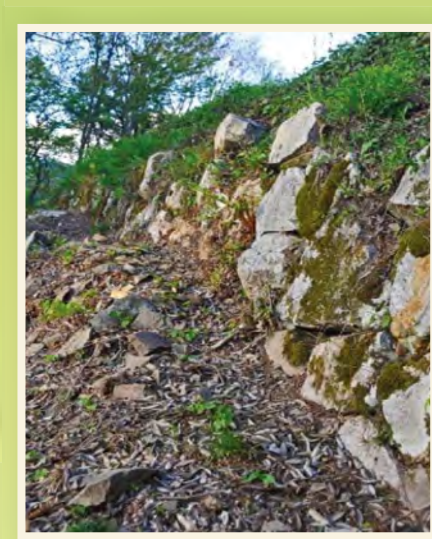
# 探検してみましょう

7 常の丸

50m×50mの面積。標高480m。周囲は石垣で区画されています。西端には長さ23m、幅10m、高さ3mの石垣をめぐらした櫓台状の高まりが築かれています。石垣は鉤型を成しています



一段高いところに櫓台。その下に15mの 8 堀切の跡が残されています。



櫓台の西側の石垣は花崗岩が多くみられます。

常の丸の崖の下方には角石が多くみられます。

東側下手には石積の井戸があります。

## 頂上 常の丸

5 築山の跡

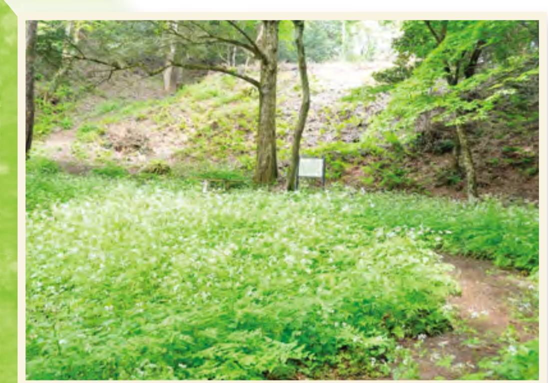
常の丸に向かう登山道を進むと立石が多く庭園と見られる平があります。庭園跡の上が、山頂常の丸です。

6 太鼓の平

櫃の平らに続き、軍事用の重要な地点になっていたと思われます。

4 欅が平

太鼓の平の下にあり、土塁が続いています。



2 樫の平

平のなかでは一番広く、樫の木の下方に 3 井戸の跡（住居跡）もみられます。本城の中心的な施設があったと思われます。

登山道の脇の白樫の大木（胸高3m以上）

県の史跡に指定され、動植物と共に五品嶽城跡として保護されています。

1 世直神社

【登山道】高低差約160m、鳥居をくぐり世直神社を経由して頂上（480m）へ向かいます。

# まちなみ散策しながら商売繁盛の七胡巡り・東城四国八十八ヶ所霊場仏尊のパワースポット巡りもいかがですか

〈東城の由来と町並み〉

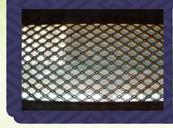
東城は、吉備国の一部でしたが、吉備国が備前、備中、備後に分割された令制国成立（670年前後）に伴い備後の国に属しました。その後、室町期に宮景友氏が五本竹城（後の世直城、五品嶽城）を築きますが、後に本居を西へ約16㎞離れた大富山城（西城町）に移したため、五本竹城が「東の城」と呼ばれるようになり、東城という地名が使われるようになったといわれています。東城の町並みは、東城川に沿って南北に長く、商い人や職人が主に居住する本町Aを中心に、西側に武家屋敷がならぶ家中町（館町）B、東側に舟運で開け宿場町として発展した後町（浜栄町）Cの3つの大路に、それを結ぶ小路で形成されています。また数か所には前方が見渡せない枡形の街路Dが配され、外敵が攻め込み難い構造となっています。このような町並みの骨組みは、関ヶ原の合戦後、長尾隼人正一勝氏が世直城主（後の五品嶽城）になってから計画的に整えたといわれています。その後一国一城令の発布により城は廃城となりましたが、陰陽の国境の要衝として城の機能は版籍奉還頃まであったといわれています。東城は城下町の面影を残した宿場町としての性格が強くなり、たたら製鉄の隆盛とともに町並みが発展し、独自の文化を育んできました。現在においても、新町筋Eに「格子窓」「ぶちょう」「板のれん」「小縁」など東城の代表的な町家の伝統を引き継ぐ商家が並び、独自の景観を保持しています。

## 国登録有形文化財

### ❷ ヤマモトロックマシン（旧山本鉄工所）

【平成28年2月25日登録】

工場棟5棟、旧自治寮3棟が国登録有形文化財に登録されました。建物の多くは昭和初期の木造であり、地元の大工棟梁である曽田敏郎氏を起用して建てられたものです。日本の木造建築の黄金期にあたる当時と変わらぬ姿を今もとどめており、広島県内のみならず全国でも有数の優れた近代化遺産となっています。



### ❶ 庄原市三楽荘（旧保澤家住宅）

【平成23年1月26日登録】

明治期に東城の名匠と言われた横山林太郎棟梁により建てられ、東城のまちなみ景観の代表的な町家です。建築当時、当主、保澤定四郎は、呉服反物商・醤油醸造業を生業としていましたが、昭和24年、定四郎の曾孫 保澤洵により旅館業に転業し、以後60年間旅館「三楽荘」として多くの人々に親しまれてきました。現在は、庄原市が寄贈を受け東城の歴史と文化を伝える施設として運営しています。

三楽荘（旧保澤家住宅）は、建築年代の近い本館、離れ、土蔵及び門・塀が揃って現存する点や、現代において入手が難しい高価な材の使用、欄間などの特徴的な細工などが高く評価され、国登録有形文化財に登録されました。

### ❸ 五品嶽城跡（広島県史跡）

五品嶽城跡は、備中・伯耆との国境に近い東城盆地にあり、東城の町並みを東眼下に見る通称城山（標高480m）に築かれた中世末期（室町時代）から近世初頭にかけての山城です。山頂の常の丸をはじめ、太鼓の平、欅が平、榎の平などの郭や井戸の跡などが残っています。また、樹の種類が多く植生豊かで、良好な自然環境を有していることから緑地環境保全地域に指定されています。元和元（1615）年の一国一城令により廃城となりましたが国境の要衝として城の機能は版籍奉還頃まであったと考えられています。

【本城の特色】宮氏が築城した中世構造の上に、佐波氏長尾氏により、石垣、石庭、瓦葺建物などの近世初頭の技術が加えられています。近世初頭以降は手が入れられておらずほぼ完全に保存され、学術的に貴重です。

五品嶽城についてもっと詳しく裏面にご紹介しています。

### 備後東城の七胡（ななえびす）

広島の胡子神社から勧請されたと伝えられています。東城市街地には上市・上之町胡、備中町胡、橋向胡、上本町胡、浜栄町胡、下本町胡、館町胡、新町胡、下町元胡、市頭胡の計10社が祀られていますが、縁起の良さから七胡と呼ばれています。

市街地にバランスよく配置されている胡神社をめぐりながら、当時の「町衆」の意気込みを感じてみては。

館町胡
下本町胡
上本町胡
上市・上之町胡
下町元胡
新町胡
浜栄町胡
備中町胡
橋向胡
市頭胡

### ❻ 出雲大社東城教会縁結びの松

大国主大神を祀り、縁結びの神様としても知られる出雲大社東城教会の境内には、黒松（雄松）と赤松（雌松）が仲睦まじく手をつないでいます。

### ❹ 世直神社（よなおり じんじゃ）

もとは豊宇気毘売神（とようけひめのかみ）を祭神とする神社（王太子社と言った）で、天正19（1591）年五本竹城代渡辺内蔵が領内守護のため伊勢から勧請したと伝えられています。後に金毘羅神社や天満宮が祭られ、五穀豊穣・商売繁盛・交通安全、また学問の神様として町民に親しまれてきたようです。今では11の神様が祭られ、ここに参れば何でも叶う？？

### ❼ 常夜灯

約220年前に建てられ、当時は川舟の灯台の役目をしていました。

### ❺ 東城川の甌穴（おうけつ）（広島県天然記念物）

東城川の比較的やわらかい川床面に直径20㎝から2mに及ぶ30個以上の甌穴が分布しています。水流が小礫を渦上に回転させてできた穴で、他地域のものに比べ、広範囲にわたって質、量ともに豊富です。

## まちなかの名菓と酒・酢

### ⑪ 竹屋饅頭本舗

創業は江戸時代末期。名菓「竹屋饅頭」は糀ともち米で発酵させた酒種を用いた、本格的な酒饅頭です。

### ⑫ 延城堂

創業は大正8年。名菓「雄橋」をはじめ、店内にあるお菓子は、すべて自家製手作りです。

### ⑬ 北村醸造場

蔵の創業は天保年間。江戸時代に建てられた蔵の一部は現在でも利用している。銘柄「菊文明」

### ⑭ 後藤酢醸造元

130年前から変わらぬ製法で、酒粕を原料に地元の硬水を使い、珍しい「赤酢」の製造販売をしている。

### ⑮ 生熊酒造

創業慶応元年。現在のブランドである「超群」は昭和元年に誕生。※醸造場は平成27年から川西へ移転。

## インフォメーション

### ⑯ 東城まちなか交流施設えびす

市民や観光客が集い・憩う交流施設です。観光案内のほか、東城のお土産や作品の紹介もしています。お気軽にお立ち寄りください。
☎08477-3-0788

### ⑰ 道の駅 遊YOUさろん東城

観光案内をはじめ、比婆牛ステーキや東城産品を使用した郷土料理を満喫できるお食事処、特産品や工芸品といったお土産など、東城の魅力を広くご紹介しています。
☎08477-2-4444

## まちなかの寺院

### ❽ 豊国山 西方寺（浄土宗）

室町時代の初め、心蓮社応誉上人によって開基されました。開創から約180年後天正年間、京都禅林寺からきた日快策伝上人が再興しました。上人は話術に長じ、落語の祖「策伝さん」として知られ、境内には天然石の記念墓があります。

**絹本著色当麻曼荼羅**（けんぽんちゃくしょくたいまんだら）

鎌倉時代の作といわれています。極楽浄土の景観が表されており、以前は死の床に臥す病人が西方浄土に行けるようにと枕辺に掲げるため貸出されたといいます。西方寺所蔵。

### ❾ 龍水山 禅佛寺（浄土真宗）

本尊は阿弥陀如来。開基は寺宝「切かけの御名号」に由来します。

### ❿ 正翁山 徳了寺（浄土真宗）

慶長9（1604）年に、大坂屋新左衛門と和泉屋与兵衛が五品嶽城主長尾隼人から寺地を願いうけ建立したといいます。大坂屋は石山本願寺の寺侍であったといわれ、その関係から浄土真宗の寺を建立したともいいます。大坂屋、和泉屋ともその頃の有力町人であり、鉄などの商いで財を成していたと思われます。境内には以前に二本松峠にあった国境碑が保存されています。

徳了寺墓地にも東城四国八十八ヶ所の第二番 極楽寺の霊場があります。

## 東城四国八十八ヶ所霊場

家内安全 病気平癒などの現世利益と極楽往生を願う、東城近隣の善男善女の切なる願いにより、七人の発起人が信者有志の寄進を募り、四国八十八ヶ所の霊場の分霊を、石造仏に刻み、新丁山根に一番札所を定め、川西・川東と旧東城全域にわたり、山裾や道路脇に安置して、明治三十五年四月、学恩寺住職第十六世 中僧都良淵導師に依り、開眼供養が行われた。

以来、特に四月二十四日大師の縁日には、大勢の善男善女が連れだって順拝し、れんげの花咲く遍路道は白衣姿が見えかくれし、春の一日がさながら絵巻物のようであったという。

しかし、参詣者も次第に少なくなり、いつしかその所在すら忘れ去られている…。

平成六年五月から『ふるさと今昔講座文化財部』が調査を開始。出来る限りの調査を行ったが、残念ながら十一体未発見のまま一応平成七年五月に所在確認の調査を終了した。

（『ふるさと今昔講座』『ふるさと今昔の歩み第二号』平成九年『霊場案内書』一部を抜粋）

そして現在、国道の整備に伴い、さらに確認が難しくなっています。しかしながら、沿道や寺院などに当時のまま残っているところもあります。その中で比較的まちなかから近く、まとまって安置されている場所をパワースポットとしてご案内します。

### 慶樂山 正安寺（曹洞宗）

本尊は聖観世音菩薩。正安元（1299）年、元使として訪れた一山一寧禅師の開基と伝えられています。

当時はこの四つのパワースポット付近に全部で35の霊場がありました。
※詳しくは裏面へ。

### 花谷山吉祥峰 千手寺（曹洞宗）

寺伝によると、造られたのは奈良時代だといわれています。その後宮氏によって再建され、佐波広忠や福島氏の家臣長尾隼人の菩提所でした。境内の一角にある五輪塔は元和5（1619）年に建てられた長尾隼人の供養塔です。

**〈絹本著色仏涅槃図〉**（けんぽんちゃくしょくぶつねはんず）

釈迦が涅槃された様子を絵図にしたものです。画面の左端に「天正六年戌寅五月三日誌焉地絹三善秀威」の墨署名があります。千手寺所蔵。

### 鶴林山観音院 学恩寺（真言宗）

本尊は観世音菩薩。江戸中期から真言宗の行事に使われた敷曼荼羅などを見ることができます。また、毎年4月17日には、四国八十八ヶ所の本堂下のお砂と御本尊をおまつりし、これに参拝し祈念することで四国八十八ヶ所を巡拝したと同じご利益をいただける「お砂踏み法要」が行われています。

### 新丁山根

東城四国八十八ヶ所の一番札所。霊場参拝を志す人々の心願成就などを祈り大正14（1925）年に建てられた、阿毘羅吽釼欠（あびらうんけん）（剣）の梵字碑もあります。